

## 各水試発トピックス

# 双頭ナマコ飼育中

平成21年7月13日に稚内地区水産技術普及指導所枝幸支所から、口が2つあるナマコの持ち込みがあったとの連絡が入りました。早速そのナマコを稚内水試まで送ってもらうことにしました。

このナマコ、見ると頭が2つありました。体重は86gでした。枝幸沖の水深10～20mの漁場からなまこ桁曳きで漁獲されたものだそうです。捕った時には気づかれなかったらしく、加工(干しナマコの原料)に回っていたもので、既にお腹は切れ、内臓は出された後でした。着いたときは元気が無く、体表には傷もあり、かろうじて生きているような状態でした。それでも緩慢な動きをして、両方の口とも同じように動かしていました。頭は相同ではなく、一方は僅かに小型で、体の横から言わば生えてきたような様子にも見えます(写真1、2)。小さい口の触手の本数は少なく、完全な器官ではないと思われました。

頭が2つのナマコは以前にも本誌63号(2004年)で紹介されています。さらに、奥尻地区水産技術

普及指導所から同じ平成21年年9月9日に奥尻島勘太浜沖8mで今度は3口のナマコが採れたという話を聞きました(写真3)。これらは、何かの原因で体側に傷を付け、そこが治癒・再生する段階で間違っ頭を作ってしまったものではないかと推測されます。奥尻島などは、その漁法(胴突き漁)にも関係しているのではないかと考えています。崔(1962)は実験で再生して出てきた頭を「余計な口部」と表現しています。実際歩くのと隠れるのに若干邪魔にはなるでしょうが、「余計なものができる・・・」とは感じてないんじゃないでしょうか。頭がいくつもあるのは誠に珍しいもの、であろうとは思いますが、何と去年に2例、その前を含めて6年で3例とは。ここ何年かの漁獲量の増加と関係あるのでしょうか。

しかし、このような「切れても生える」ナマコの生命力には改めて感心させられます。全く攻撃力を持たない、無抵抗のナマコの、究極の防衛手段なのかもしれません。

さて、このナマコ、その後何とか傷をなおし、元気になって平成22年2月現在もお飼育中です。稚内水試の展示水槽で「双頭ナマコ」の奇妙な姿がご覧いただけます。

(中島幹二 稚内水試資源増殖部)

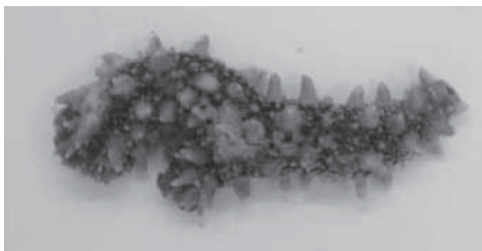


写真1 双頭ナマコ (表)

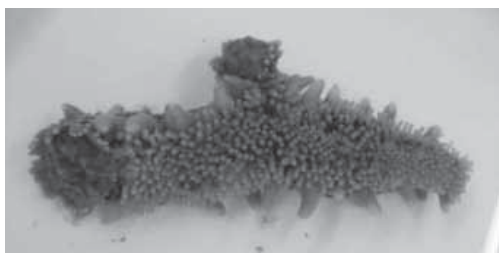


写真2 双頭ナマコ (裏)

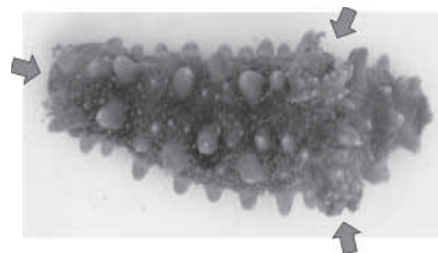


写真3 3口ナマコ  
(奥尻地区水産技術普及指導所提供)

## 各水試発トピックス

### 「香深漁協青年部視察研修」

平成21年10月26日（月）午後から、礼文町の香深漁協青年部7名が視察研修で中央水試を訪れました。

一行は、はじめに道立水試での研究業務概要の説明を受け、場内の実験棟等、場内の各施設を視察しました。

その後セミナー室にて、資源管理部の山口資源予測科長と資源増殖部の瀧谷研究職員から、「ニシンの資源動向や資源管理の重要性」について講義を受け、熱心に質疑が行われました。

（古明地恵一 中央水試企画情報室）



山口科長から講義を受ける様子



瀧谷研究職員の講義を受ける様子

### 「余市町立西中学校体験学習」

平成21年10月29日（木）10時から、余市町立西中学校2年生の生徒8名が中央水試を訪れました。

はじめに、生徒達から中央水試に対する「仕事の中身」や「仕事上大変なこと」等の質問を行い、その後、当場の前浜でプランクトンネットを

曳き採取した生物を顕微鏡で観察しました。

参加した生徒達は、興味深く熱心にこの体験学習に臨んでいました。

また、体験後には学校で成果発表をするとの事で、とても貴重な一日になったようでした。

（古明地恵一 中央水試企画情報室）



生徒達の質問に回答する西内企画情報室長



宮園主任研究員の話熱心に聞く生徒達